

開催地名：埼玉県さいたま市見沼区	
開催日時	令和元年9月19日（木） 14：30～16：00
開催場所	見沼区役所庁舎内 2階大会議室
語り部	菊池 健一 （宮城県仙台市）
参加者	見沼区内各避難所運営委員会 約30名
開催経緯	<p>当区では毎年、各避難所に設置されている避難所運営委員会（自主防災組織・市職員・学校施設管理者による組織）により、区内20箇所の避難所を一斉開設し、発災当初の避難所運営の在り方を学ぶための避難所運営訓練を実施しているほか、各地域でもそれぞれ防災訓練を行っている。しかし、近年大規模な災害による被害は受けておらず、避難所を開設する経験もほとんどない中で、避難所運営における各自の役割や生活ルール作りを始め、災害時要配慮者への対応や様々なトラブル処理など、今後起こり得る地震や水害等の大規模災害を踏まえ、より実践的な訓練や備えをどのようにすべきなのかについて、お話を伺いたい。</p>
内容	<p>(1) 地震発生から避難所での生活</p> <p>町内会では、大規模災害に備えて、毎年、避難訓練を行っていたが、東日本大震災では、ほとんど役に立たなかった。激しい揺れに動揺する中、道路は寸断され、携帯電話、固定電話ともつながらないため、火の始末、出口の確保、家族への連絡、周りの人の安否確認等、身を守るすべてのことができなかった。</p> <p>避難所への避難についても、速やかに移動できない人たちが結構いた。貴重品を探していたり、貴重品を置いていく事に抵抗を感じて避難を拒んだりする人もいた。命に係わる問題なので、毅然とした態度で避難を求めることが必要だ。また、夜間はどうしても周囲の目が届かないので、自警団を編成して区域のパトロールを行った。</p> <p>避難所の運営についても、スタート時点からうまく機能はしなかった。運営を阻害したものとしては、情報の不足、燃料の不足、通信手段の不足の3つがあげられる。また、1つの避難所に、8つの町内会が集まっており、町内会ごとでは避難訓練を行っていたが、合同では実施してないため、連携がうまくいかず、運営に支障が出た。地震4日目まで物資が届かなかったことも不安をあおった。対策として、町内会長を中心とし、町内会ごとにまとまってコミュニティ最優先の運営を進めた結果、情報収集と伝達に効果があった。</p> <p>避難所生活での主な問題点は以下のとおりである。</p> <p>① トイレの不足 当初は仮設トイレ2つのみ</p> <p>② 避難所内のスペースの問題</p> <p>早く避難所に来た人から場所を確保するため、後から避難してきたお年寄りや女性は、入口近くの寒い場所しか空いていない。</p>

- ③ 情報の不足 避難者の不安増大につながり、誤情報も飛び交う  
燃料の不足、通信手段の不全（電話や防災無線が使用できないことによる情報共有障害）が避難所運営を阻害。
- ④ ペットの問題  
避難所にペットを連れて来た人もいたため苦情が出た。ペットは癒しでもある。人の生活場所とは別のところにペットの避難所を作った。  
※東京都は「ケージ」持参というルールあり
- ⑤ 指定避難所は、お祭り騒ぎ  
他県から慰問で来て、手品や吹奏楽の演奏が連日続くと、初めは良いが苦情が出るようになる。  
避難所はどうしても高齢者中心になる。（実際9割が高齢者で占められた）  
高齢者の目線での生活サイクルが維持できるように工夫する必要がある。

(2) 震災の教訓

行政、町内会、民生委員等との連帯を密にし、情報の共有化を図ることが必要だと感じた。地域、行政、学校と連携して、積極的な訓練の実施を行うとともに、町内会行事等に積極的に参加して近隣の住民とのコミュニケーションをとっていくことの必要性も感じた。そして何より求められるのは、迅速な判断と行動である。

また、夜間の避難訓練や、車いすを使用したの避難訓練、小学生や中学生に対する避難所運営訓練、トランシーバー（無線機）を使用する訓練等について、是非取り組んでいただければと思う。



開催地より

震災時の初動対応の大切さと、避難所運営について、具体的な体験談を聞くことができ、非常に参考になった。今後の活動の中で、役立てていきたいと思う。